

# ビギナーのための3大撮影テクニック

オリジナル・シー・ヴィ代表 末次 浩

その1 動画は動いてはいけない

その2 シーン・チェンジはシーンとする

その3 パンはパッとふるな

## その1 動画は動いてはいけない

ビデオカメラを買ったばかりの皆さんに、これだけはまず知ってほしい3つのテクニックを紹介しましょう。

今回のテーマは「動画は動いてはいけない」ということです。

まず、初めてビデオカメラを使う皆さんによくお見受けすることは、ビデオカメラは絵が動くのだから、ビデオカメラも動かさなければならないと思っている節があることです。ビデオカメラを右に左に振り回し、ズームを多用することをよく見ます。

それは大変な勘違いです!!!

その結果、撮影されたものは視聴者の気分が悪くなるようなものになっていることが多いのです。なぜかいうと、人間は見ているもの全体が動くことに非常に敏感ですので、それが動くとなると気分が悪くなってしまうのです。

具体的にいうと、動画も写真や絵と同じように枠(フレーム)の芸術です。枠の中にその芸術があるのです。だから、枠の中は動くけれども枠全体は基本的に動いてはいけないのです。

ビギナーの方が撮影したものはその枠が激しく動くから視聴者の気分が悪くなってしまうのです。

ではどうすればよいかというと、撮影のときは基本的にビデオカメラを固定して撮るということです。基本はやはり三脚を使うことです。三脚を使うと見違えるように動画はよくなります。

最近のビデオカメラは小型軽量ですので、そんな面倒くさい三脚なんて使いたくないとおっしゃる方はせめて片手で撮影することは止めて、両手でビデオカメラをしっかりと固定して撮影して下さい。(両手

でしっかりと固定したつもりでも、手ぶれが起こっていることをお忘れなく！)

動画(ビデオカメラ)は(枠が)動いてはいけません。

## その2 シーン・チェンジはシーンとする

ビデオカメラを買ったばかりの皆さんに、これだけはまず知ってほしい3つのテクニックの第2回目です。

今回のテーマは「シーン・チェンジはシーンとする」です。

第1回目のテーマは「動画は動いてはいけません」でした。その中で、撮影の基本はビデオカメラを固定して撮るというお話をしました。

さて、ここで、実際に撮影をしてみましょう。三脚を使ってビデオカメラを固定します。被写体にカメラを合わせ、ズームボタンやワイドボタンを使って絵の構成を決めます。そして、絵の構成が決まったら、録画ボタンを ON にして、被写体の撮影を開始します。

被写体が何か演技をしたり、話をしたり、面白いことを演じてくれているときはずっとその被写体にカメラを向けて追ってあげたいでしょう。

被写体の演技が終了したとき、皆さんはどうしますか。そうです。録画ボタンを OFF にして録画を終えます。

そして、次のシーンの撮影準備に入ります。次は違う被写体にカメラを向ける、或いは、同じ被写体でも寄ったり(ズームボタンを押す)、引いたり(ワイドボタンを押す)して、次のシーンの絵の構成を決めます。そして、決まれば、再び録画ボタンを押して録画開始です。

このなんとも当たり前のようなことが、ビギナーの方にはほとんど出来ていません。

上のことをもう一度整理してみましょう。

撮影準備(カメラを振り、ワイド・ズームボタンを使って絵の構成を決める)→ 録画(録画ボタンを ON にして撮影し、終了するときは録画ボタンを OFF にする) → 撮影準備 → 録画 → 撮影準備 →

録画 → ……

ビギナーの方は何ができていないかというと、この撮影準備と録画の区別ができていないのです。撮影準備のときも録画ボタンを ON にしたままだということです。ですから、不必要な撮影準備の映像も記録に残ってしまいます。

この撮影準備の映像というのは急激なズームやカメラを振るシーンが入っていますので、視聴者にとっては最悪で、気分が悪くなってしまうのです。

撮影の基本のその2は、必要なものだけ撮り、必要でないものは決して撮らない、ということです。

シーン・チェンジ(撮影準備のとき)はシーンとする(録画ボタンを OFF にして静かにする)

### その3 パンはパッとふるな

ビデオカメラを買ったばかりの皆さんに、これだけはまず知ってほしい3つのテクニックの第3回目です。

今回のテーマは「パンはパッとふるな」です。

第1回目のテーマは「動画は動いてはいけない」でした。その中で、撮影の基本はビデオカメラを固定して撮るというお話をしました。

そして、第2回目のテーマは「シーン・チェンジはシーンとする」でした。

撮影準備のときは録画ボタンを OFF にし、ズーム・ワイドボタンを使って、次の録画のための絵の構成を決めるというお話をしました。

この第1回目と第2回目のテーマが撮影の基本中の基本です。

さて、今回はビデオカメラを買ったら誰もが使いたいと思う「パン」について説明します。

パンとはビデオカメラを A 地点から B 地点まで振ることをいいます。つまり、視聴者の視線を A 地点から B 地点に誘導することです。ということは B 地点に何か視聴者に知らせたい重要なものがあるからパンを行うわけです。

気持ち的に、A 地点から B 地点へビデオカメラを振っているとき、「来るぞ、来るぞ、来るぞ。ほーら、来た。」という間合いがあればいっそう引き立ちます。

一方、もし、B 地点に重要なものがなかったら、どうでしょうか。来るぞ、来るぞと期待させておいて、B 地点に来たら、何も無い！ 視聴者の失望は余りあるものがあります。

つまり、パンは視聴者の視線を誘導するもっとも効果的な面をもちながら、もし、失敗すれば視聴者の落胆も大きいという両刃の剣なのです。失敗は許されません。

実際に録画を始める前に、A 地点から B 地点まで試しに何度もビデオカメラを振ってみて、感触を確かめておくことが必須となります。

「あれれ、ちょっと待って！ パンとはビデオカメラを振ることなので、第1回目のテーマと矛盾するんじゃないですか？」

まさにその通りです。あっさり兜を脱ぎます。

でも、こういう具合にご理解下さい。第1回目と第2回目のテーマが基本中の基本で、作品全体の8-9割を占めます。そして、たまにこの3回目のテーマとなるパンを使うと作品としての効果が上がります。

「パンはパツとふるな。」おわかりいただけましたでしょうか。

3つのテーマの説明が終わりました。これをきちんとできるようになれば、お子様のパパへの評価はAからBに変わるでしょう。

評価 A「パパのビデオ、気持ち悪ーい。」

評価 B「パパのビデオ、面白ーい。」